

Hyperlisp とその implementation

萩谷昌己・佐藤雅彦
(東大理・情報科学)

1. prolog(ue)

Prolog の話から始めよう。Prolog で、次のような predicate eq を考える。

```
+eq(X, X, true).  
+eq(X, Y, false).
```

これで、2つの term の equality を判断しようというわけだ。さて、次のような関数定義があるとする。

$$f(X, Y) = \text{if } X \neq Y \text{ then } g(X, Y) \text{ else } h(X, Y) \text{ fi};$$

今、 g は、 $g(X, Y, Z)$ 、 h は、 $h(X, Y, Z)$ という predicate で表現されているとしよう。 Z は、いわゆる output variable だ。 g, h から、 $f(X, Y, Z)$ を定義したい。すぐに考えつくのは、次の定義だろう。

```
+f(X, Y, Z) - eq(X, Y, false) - g(X, Y, Z).  
+f(X, Y, Z) - eq(X, Y, true) - h(X, Y, Z).
```

これでよいか。明らかにまちがっている。原因は、 eq の定義にある。 eq の定義は、programming language としての Prolog に特有の、‘評価の順番’というものを利用している。では、こうしないと eq は定義できないのだろうか。Prolog の data structure は、簡単にいえば、closed term の全体で、それは、function symbol を定めることによって決まる。ところが、Prolog は、function symbol の全体をきちんと定めてはいない。

今、仮に function symbol を、 0 (nullary) と 1 (unary) に限ってみる。すると、 eq は次のように定義できる。

```
+eq(0, 0, s(0)).  
+eq(0, s(X), 0).  
+eq(s(X), 0, 0).  
+eq(s(X), s(Y), Z) - eq(X, Y, Z).
```

この定義は、‘評価の順番’に全く頼っていない。(true を $s(0)$ 、false を 0 で表現している。)しかし、実際の Prolog では、function symbol が不特定無限個あるため、このような定義は不可能である。

2.

我々が認識できる object とは、どんなものだろう。ここでいう‘我々’の中には、高速計数型電子計算機という subject も含まれることはいうまでもない。明らかに、我々は有限個の element からなる object は認識できる。では、無限個ならどうか。これが極めてむづかしい問題なことは確かだが、次のことは最小限いえる。“我々は、有限個からなる object の element に、有限個の operation を、有限回作用させてできる(ものからなる) object は認識できる。”この原理を正確に言えば、いわゆる

generalized inductive definition という形になる。たとえば、自然数という object は、

- i) 0 は自然数。
- ii) n が自然数ならば、 n' は自然数。
- iii) i), ii) からできたもののみが自然数 (extremal clause)。

こうして、自然数は、無限個あるけれども、認識できる object なことがわかる。

3. lisp

Lisp の data は、Sexpression と呼ばれる。Sexpression は、次のように定義される。

- i) atom は Sexpression。
- ii) α, β が Sexpression ならば、 (α, β) は Sexpression。
- iii) extremal clause。

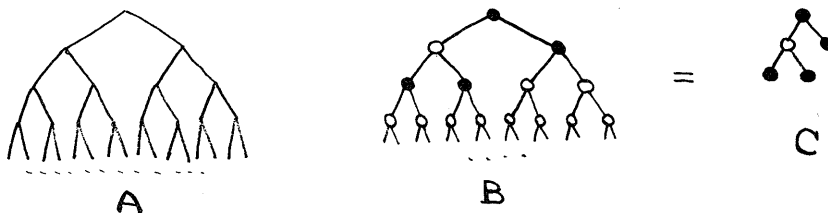
こうみると、Sexpression は、2 でいう object と認められそうだが、i) が問題だ。いったい atom とは何なのか。実際の Lisp system では、atom は実に種々雑多である。integer であり、string であり、real number であり…。もうめっちゃめっちゃだ。

話を Pure Lisp に限ろう。Pure Lisp の atom は、 $a, aa, \dots, ab, \dots$ といった、literal atom である。atom が認識できる object である以上、それらは有限個の object から組み立てられていなくてはならない。事実、literal atom は、 $a, b, \dots, z$ という 26 文字からできている。ところが、Pure Lisp の primitive は car, cdr, cons, atom, eq の 5 つで、これだけでは atom の内部構造を知ることはできない。その代りに、eq という、atom の equality を与える predicate を primitive にしているわけだ。この点が Pure Lisp の大きな問題点で、(Turing machine のような) 計算の model として Pure Lisp を採用することをむづかしくしている。

4. sexp

そこで、Hyperlisp が登場してくる。Hyperlisp の data は sexp という。Sexpression の略である。まず、直観的な定義から始めよう。

下図 A のような、無限にのびる葉のない binary tree を考える。



これを基盤とみる。有限個の黒石を用意して、それらをこの基盤上に適当におく。黒石があかれなかった所には、白石をうめていく。できあがった図形を sexp と呼ぶ。(B) 実際の絵に書かれていない所には、すべて白石がうまっていると約束する。黒石の数は有限としたから、sexp は有限の図形として描ける。B と C は同じ sexp である。sexp の全体を S で表わす。

黒石の 1 つもない sexp を O で表わす。

次に、 S 上の primitive を定義する。

$\text{atom} : S \rightarrow \text{Bool}$

$\text{atom}(x) = \text{if } x \text{ の root が黒い then true else false fi}$

$\text{car}, \text{cdr} : S \rightarrow S$

$$\text{car}(\text{node}(x, y)) = \text{car}(\text{node}(x, y)) = x$$

$$\text{cdr}(\text{node}(x, y)) = \text{cdr}(\text{node}(x, y)) = y$$

$\text{cons}, \text{snoc} : S \times S \rightarrow S$

$$\text{cons}(x, y) = \text{node}(x, y)$$

$$\text{snoc}(x, y) = \text{node}(x, y)$$

$\text{atom}(x) = \text{true}$ となる x を atom と呼ぶ。この名前はよくない。なぜなら、 atom の car はとれるのだから。

次の等式に注意して欲しい。

$$\text{car}(0) = \text{cdr}(0) = 0$$

$$\text{cons}(0, 0) = 0$$

5. notation

sexp に対する notation を導入する。

dot notation:

$$(x, y) = \text{node}(x, y) \quad [x, y] = \text{node}(x, y)$$

list notation:

$$(\dots, x, \dots, y, \dots) = \text{node}(x, \text{node}(y, \dots))$$

$$[\dots, x, \dots, y, \dots] = \text{node}(x, \text{node}(y, \dots))$$

たとえば, $(x, y, z) = (x, [y, (z, 0)])$. , は ; でもよい。

6. inductive definition.

ここで, sexp を, (2 でいう) inductive に, 定義しておこう。

i) 0 は sexp .

ii) x, y が sexp ならば, $(x, y), [x, y]$ は sexp .

iii) extremal clause.

iv) $(0, 0) = 0$.

7. literal

Pure Lisp の literal atom に相当するものを S 上に実現する。a, b, ..., z 上の空でない string を literal と呼ぶ。literal を S の中へうめこむ。つまり, sexp で表現する。そのうめこみ方は任意だが, 現在の Hyperlisp では, 次のようになっている。

abc = [[1,1,0,0,0,0,1], [1,1,0,0,0,1,0], [1,1,0,0,0,1,1]]

a の ascii code は, 8進で 141, 2進で 1100001 なことに注意。

8. natural number

自然数も S へうめこんでしまふ。次のようにする。

0 = 0 (自然数 0 は, sexp 0 で表現する。)

n = [n . n]

たとえば, 1 = [0.0], 2 = [1.1], 3 = [2.2], ...

9. eval

Hyperlisp の evaluator (eval) を定義しよう。eval は, S 上の partial recursive function である。

以下, Algolic に eval を定義する。eq, cond, lambda, label は, 7 の literal である。env という global variable に, 関数定義が alist として入っているとする。

eval(x)

= if atom(x) then apply(car(x), cdr(x))
 else apply(car(x), evalis(cdr(x))) fi

evalis(x)

= if x = 0 then 0
 elif atom(x) then cons(car(x), evalis(cdr(x)))
 else cons(eval(car(x)), evalis(cdr(x))) fi

apply(f, x)

= if f = 0 then 0
 elif atom(f) then
 if f = 1 then car(x)
 elif f = eq then
 if car(x) = car(cdr(x)) then 1 else 0 fi
 elif f = cond then evcon(x)
 elif assoc(f, env) ≠ 0 then apply(cdr(assoc(f, env)), x)
 else apply(eval(f), x) fi
 else
 if car(f) = lambda then
 eval(subst(x, car(cdr(f)), car(cdr(cdr(f)))))
 elif car(f) = label then

```

      apply(subst(f, car(cdr(f)), car(cdr(cdr(f)))), x)
    else apply(eval(f), x)  fi fi

```

```

evcon(x)
= if x = 0 then 0
  elif atom(eval(car(car(x)))) then eval(car(cdr(car(x))))
  else evcon(cdr(x)) fi

```

```

subst(x, p, b)
= if p = 0 then b
  elif atom(p) then point(x, car(p))
  elif atom(b) then
    snoc(subst(x, car(p), car(b)), subst(x, cdr(p), cdr(b)))
  else cons(subst(x, car(p), car(b)), subst(x, cdr(p), cdr(b))) fi

```

```

point(x, q)
= if q = 0 then 0
  elif atom(q) then x
  elif cdr(q) = 0 then point(car(x), car(q))
  else point(cdr(x), cdr(q)) fi

```

```

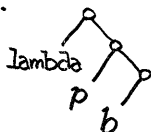
assoc(x, a)
= if a = 0 then 0
  elif x = car(car(a)) then car(a)
  else assoc(x, cdr(a)) fi

```

まず, eval と evalis をみれば, 実引数の評価のされ方がわかると思う。つまり, 評価される sexp が atom のときは, 引数は全く評価されず, そうでないときは, evalis へ渡される。引数 list が, $(\dots, x, \dots, y, \dots)$ のとき, evalis は, x は評価し, y は quote するという動作をする。以上によって, Hyperlisp では, FEXPR と EXPR を分ける必要がなく, また QUOTE もいらない。

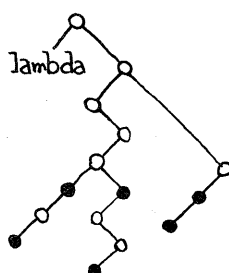
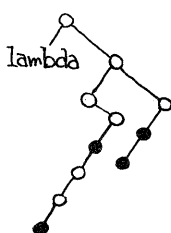
apply では, Lisp と同様に, primitive や lambda expression を認識して, application の処理をする。primitive は, 0, 1, eq, cond の4つである。その意味は, apply と evcon から明らかだろう。car や cons に相当する primitive がないのは, それらが lambda で定義可能だからだ。

Hyperlisp の lambda expression と parameter binding は, Lisp と大きく異っている。強いといえば, Lisp の macro に近い。lambda expression は, 左のような形をしている。



lambda は, literal で, 全体が lambda expression であることを示す。b が関数 body で, p は, 実引数が body のどこへ, 代入されるかを表す sexp である。詳しくは, subst と point の定義をみて欲しい。apply は, 関数が lambda expression であることを知ると, 実引数を body へ代入する。そして, そ

ある。lambda expression の例として, car と cons を ~~表~~^作してみよう。



両者とも、1 という primitive が本質的である。

10. reference language

Hyperlispのnotationのsystemは、5で導入した簡単なnotationよりも凄まじく拡張されている。(これは、evaluator(特にlambda)を考えれば明らかだ。)これを、Hyperlispのreference languageと呼んでいる。以下、そのsyntaxをBNFで定義する。

Hypemules :

$$\begin{aligned} \langle \dots - \text{seq} \rangle &::= \langle \text{empty} \rangle \mid \langle \dots - \text{seq}' \rangle \\ \langle \dots - \text{seq}' \rangle &::= \langle \dots \rangle \mid \langle \dots \rangle, \langle \dots - \text{seq}' \rangle \end{aligned}$$

Rules:

```

<form> ::= <term> | <term> : <term>
<term> ::= <unit> | <term> <list>
<unit> ::= <literal> | <metatliteral> | <natural number> | <list>
           " <unit> | <lambdaexp> | <labelexp>
<list> ::= <conslist> | <snoclist>
<conslist> ::= ( <listelem-seq> ) | ( <listelem-seq> . <form> )
<snoclist> ::= [ <listelem-seq> ] | [ <listelem-seq> . <form> ]
<listelem> ::= <form> | ' <form>
<lambdaexp> ::= Lambda( <metaterm> , <form> )
<labelexp> ::= Label( <metaterm> , <form> )
<metaterm> ::= <metaunit> | <metaunit> = <metaterm>
<metaunit> ::= <metatliteral> | <metalist> | 0
<metalist> ::= [ <metaterm-seq> ] | [ <metaterm-seq> . <metaterm> ]
<metatliteral> ::= 大文字で始まる英数字列 e.g. X, X1, Y, ...
<definition> ::= # <unit> <metalist> = <form>

```

$$\langle \text{top-level} \rangle ::= \langle \text{form} \rangle \mid \langle \text{definition} \rangle$$

、は；でもよい。

formが sex を denote するわけで、この denotation の rule を定めるということが、reference language の semantics を与えるということになる。ここでは詳しく述べられないが若干の hint をあげておく。

$"x = [1, x]$
 $f[\dots] = [f, \dots]$
 $f(\dots) = (f, \dots)$
 $x : y = (x, y)$
 $(x, y . z) = (x . (y . z)) \quad (.x) = x$

$\text{Lambda}([X, Y]; "(X.Y)) = \{9 \text{ の cons を } \text{sexp}\}$
 $\text{Lambda}([X]; "X) = \{\text{car を } \text{sexp}\}$

11. function definition

たとえば,

$\# \text{foo}[X] = \text{fee}[X, X]$

という関数定義は, literal foo に, $\text{Lambda}([X]; \text{fee}[X, X])$ という定義を与えることを意味する. 任意の atom に, 関数定義を与えることができる.

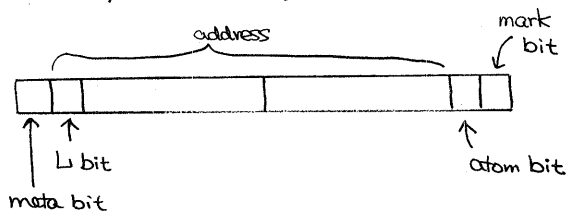
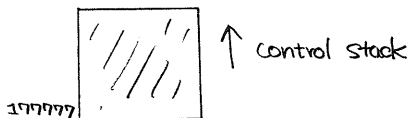
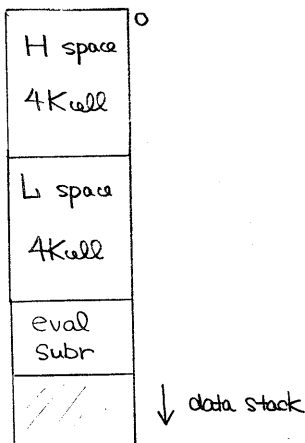
関数定義をあるごとに, 9 の env が update されると考えればよい.

12 implementation

最初の interpreter は, UNIX 下の PDP11 上に, C と as で implement した. pointer は 16 bit で, 1 cell は 4 byte である. S は monopoly で実現した. (関数定義と literal の出力が主な理由.) core map を左下に示す. sexp は H space 上に作られる.

関数定義は, Semi-compile される. つまり, 11 の specification をそのまま implement しているわけではない. このときに, L space (monopoly でない) が使われる. なるべく実引数の関数 body への代入を行わないような工夫をしている.

pointer の構造を下に示す.



pointer の中に atom bit を入れた.

sexp 0 は pointer 0 で表現される.

関数とその定義は hash table で結びつけた.

8 QUEEN 的 PDP11/55 で 32 秒で解けた.

13. examples of Hyperlisp programs

```
#cons[X,Y] = "(X.Y);  
#null[X] = eq[X]  
  
#append[X = [X1.X2], Y]  
= cond[ null[X] : "Y;  
      "1 : cons('X1, append[X2, Y]) ];  
  
#reverse[X = [X1.X2]]  
= cond[ null[X] : 0;  
      "1 : append(reverse[X2], '(X1)) ];  
  
#s[X] = "[X.X];  
  
#add[X = [X1], Y]  
= cond[ null[X] : "Y;  
      "1 : s(add[X1, Y]) ];  
  
#fib[X = [X1 = [X2]]]  
= cond[ null[X] : 0;  
      eq[X, 1] : "1;  
      "1 : add(fib[X1], fib[X2]) ];
```

14. reference

- [1] E. Goto: Monocopy and Associative Algorithms in an Extended Lisp, TR74-03
Information Science Laboratories, Faculty of Science, University of Tokyo
- [2] M. Sato: Theory of Symbolic Expressions, TR80-16, Department of Information
Science, Faculty of Science, University of Tokyo
- [3] 萩谷 昌己: よい子の Hyperlisp (not published)

[1] は monocopy について.

[2] に, Hyperlisp の厳密な定義がある.

[3] は, Hyperlisp の tutorial.

- [4] M. Hagiya: Hyperlisp 2.1 Manual

[4] は Unix の pack に入っている.